

前回の振り返り(各委員から出た意見)

(1)子どもの意見表明・参加について

- 中高生に意見を聴く場合、時間の設定が難しい。
- 学校や地域において、意見を言い合うコミュニケーションの場が増えると良い。
- 子どもの意見表明・参加に関して権利委員会の場で委員も学び合い、意識を共有していきたい。
- 子どもにとって意見を言うことは非常にハードルが高いと思う。日常の中でどうやって子どもの声を聴く場面を持つことができるか、どう子どもと接していけば良いかを考えることも大事である。
→意見を伝えるときはどんな形でも良いということをきちんと子どもに伝えるとともに、その伝え方や情報の見せ方を工夫することで、より多くの子どもが参加してくれるのではないかな。
- 子どもの言葉にならない思いも含めて意見であることをきちんと打ち出したい。
- 乳幼児の意見表明権をどう保障していくかをきちんと見せていきたい。
→乳幼児へのヒアリングの様子を撮影した動画を編集し、広報する予定である。
- 子どもに限らず大人もそうであると思うが、やはりそれなりの相手でないとな自分の意見を素直に言うことはできないと思う。子どもと仲良くなることで相手の本音に近い言葉を聴き出せるのではないかなと思うので、そのあたりをどのようにやっていくのが課題だと思う。特に小学校高学年あたりからは、評価を気にして発言しないところがある。
- 大人の意識の改革がないと、子どもの意見だけを聴いても子どもの意見表明・参加は進まないと思う。
- 大人の意見と子どもの意見がぶつかる場所は公園ではないかな。公園をテーマに互いが話し合う機会を作ってみても面白いのではないかな。
- 意見を言いづらい子どもへのヒアリングを行いたい。
- 子どもの意見表明・参加に関して大人(教職員、保育士、庁内職員、家庭、地域)がどう考えているかヒアリング/意見交換をしたい。本音ベースで話せる場を設定したい。
→実際の対話から子どもの意見表明・参加に関して中野区や権利委員会として大事にしたいことが見えてくるのではないかな。
→色々な人が関わるからこそ、ヒアリングを行う目的は何か、ヒアリングを行うことで何を目指しているかをきちんと落とし込む必要がある。

(2)その他

- 子どもの権利の日(11月20日)に権利委員会として何かやりたい。
- 相手に伝えた言葉が相手には違う形で伝わってしまうこともあるので、話したことに対するフォローやコミュニケーションを行うことがとても大切だと思う。
- 現場の動き(教職員への研修など)も意識しながら権利委員会として適切なタイミングで動いていきたい。